

津軽半島をむすぶまちづくり

担当教員名 西城戸 誠

1 コースの概要

日 程	2014年2月20日～23日
場 所	青森県五所川原市、中泊町、十和田市
参加人数	21名

2 コースの目的

赤字路線のローカル鉄道の中でも人気の津軽鉄道とそれをサポートする沿線の地域活動を見学しながら、奥津軽地方の「着地型観光」について考えていきます。着地型観光とは、従来型の発地型観光とは異なり、着地側が受け入れやすい観光を通じて観光地の人々と観光客の間によりコミュニケーションが生まれるような地域密着の観光のことです。また、企業組合・でるそーれの皆さんが運営しているコミュニティカフェと、十和田市のコミュニティカフェ・ハピたのを訪問し、着地型観光、コミュニティカフェの実践から、地域の持続可能性とは何かという問いを見出すことが目的です。

3 事前学習

事前学習は2回（1回は3時間）実施し、『観光と環境の社会学』『コミュニティデザインの時代』『コミュニティビジネスのすべて』『コミュニティ・カフェと市民育ち』などを講読しました。

4 行程

1日目

五所川原市に到着後、駅周辺の街歩きをしました。「立佞武多の館」で五所川原の夏の風物詩・立佞武多を見学した後、つがる市フィルムコミッションの川嶋大史さんに「映画と地域づくり」という講演をしていただきました。夕食は、コミュニティ・カフェ・でるそーれの「うちごはん」をいただきました。

2日目

津軽鉄道の冬の風物詩であるストーブ列車に乗車し、金木駅で下車、太宰治記念館（斜陽館）と新座敷を訪問し、太宰治に関わる観光資源を見学、その比較検討を行いました。午後は、かなぎ元気村で「旧正月劇場型体験プログラム」という観光コンテンツを体験しました。さまざまなタイプの観光資源に接し、何度も訪れたい観光コンテンツがどのようなものなのかという点を考えるきっかけになりました。夜は中泊町に

移動し、地元でグリーンツリーズムや伝統料理教室を行っている「かけはしの会」による夕食（奥津軽のばけまんま）をいただきました。

3日目

午前中は、冬のアスパラ収穫体験を行いました。このアスパラは、津軽鉄道の「応援」のためにも売られています。また、アスパラの栽培の加温のために、薪の暖房と学校給食の廃油を用いており、環境教育の場にもなっています。午後は、でる・そーれの辻悦子さんから「人と地域をつなぐコミュニティカフェ」という講演をしていただき、奥津軽のラジオCMをつくるワークショップを行い、夜は奥津軽の観光について地元の方の前で発表し、講評をいただきました。

4日目

最終日は、奥津軽から南部へ移動し南部裂織体験を行った後、十和田市のコミュニティカフェ・ハピたの中沢さんから「子どもとコミュニティカフェ」というお話を伺いました。また、十和田現代美術館も訪問し、アートと地域づくりの話も伺いました。

5 事後学習

事後学習は、写真を見ながら奥津軽の着地型観光やコミュニティカフェと地域づくりについての議論や、フィールドスタディのコンセプトについての議論をしました。「机の上だけじゃ学ぶことのできない ここできなければ巡りあうことができない そんな時間と出会いが“ここには”ある」という奥津軽の方のメッセージを共有する時間になりました。



五所川原市内の街歩き



アスパラ収穫体験